

戊 陳列館新設ノ件〔同右。〕
雜件

生徒實驗ノ資ニ供スルタメ諸所ノ依頼ヲ受ケ製作ニ從事シタルモノ、中重モナルモノヲ舉グレバ左ノ如シ
依頼製作品一覽

品名	數量	受託年度	竣工別	依頼者
梵鐘	壹個	前年度	竣工	隆國寺住職 細川祖良
純銀製壽老人置物	壹個	本年度	同	高田隆平
御眞影蒔繪額縁	貳面	同	同	關東都督府中學校
府縣聯合共進會賞牌	貳千九百	同	同	農商務省
容器共〔福岡縣主催〕	六百三十四個	同	同	同
同〔愛知縣主催〕	三十四個	同	同	大阪藤田組 東京出張所
赤銅製臥牛香炉	壹個	同	同	富山縣立砺波中學校
石膏製幾何形体模型及人物像	拾八個	同	同	赤司鷹一郎
銀製花盛器	壹個	本年度	竣工	大分縣宇佐中學校
石膏製標本	貳個	同	同	高橋新吉
三ッ組金盃	壹組	同	同	農商務省
府縣聯合共進會賞牌	參千四百	同	同	東京市長
改築日本橋上部	六十個	同	未竣工	尾崎行雄
青銅製電燈柱	壹式	同	同	高義敬
曾禰子爵銀像	壹体	同	同	關東州都督府
御眞影蒔繪額縁	五面	同	同	同

『東京美術學校校友會月報』記事抜粹

東京美術學校近事〔八一五。M・四三・一・三一〕
卷号 年 月 日

○職員の休職と渡英 助教菅野眞氏渡英の事は、前號所載の如くなるが、同氏は昨年十二月十五日休職を命ぜられ、同時に日英博覽會出品協會より事務の囑託を受け、本年一月五日午前八時四十分新橋を發し、加茂丸にて渡英の途に上られたり。

○書記の新任 雇磯野富之助氏は、客歲十二月十五日、本校書記に任じ、文庫掛を命ぜられたり。

○職員の出張 正木〔直彦〕學校長は日英博覽會の用務にて、一月六日より十日間、京都府外一府六縣へ向ひて出張せられ、高村〔光雲〕教授は、内務省古社寺保存會の用務にて、一月二日出發二週間の豫定を以て、京都、奈良、大阪へ出張せらる。

○冬季休業中の職員 黒田〔清輝〕久米〔桂一郎〕兩教授は、伊豆地方へ旅行せられ、和田〔英作〕教授は日光方面へ赴かれ、白山〔福松〕教授は静養のため修善寺へ、岡田助教教授〔秋嶺氏〕は大阪地方へ、黒岩〔淡哉〕助教教授は千葉縣下へ、島田〔佳矣〕教授は東海道筋へ、白濱〔徵〕教授は三重縣の圖書講習會に聘せられ、八巻〔於菟三〕助手は郷里へ歸省せられ、石川〔光明〕教授は常陸の五浦へ赴かれたりといふ。

東京美術學校近事〔八一六。M・四三・三・八〕

○正木〔直彦〕校長の出發 正木學校長は兼て報道せし如く、日英

博覽會の用務を帶び、二月二日正午本邦出發渡英の途に上られたり。

○校長代理 前項に記す如く、正木學校長渡英につき、一月三十一日を以て、高村「光雲」教授はその不在中校長代理を命ぜられたり。

○藤島助教授の歸朝 歐洲留學中なりし、文部省留學生本校助教授藤島武二氏は、去る一月二十六日無事歸朝せられたり。

○助手の任命 三浦鋤三郎氏は、去る一月三十一日、本校雇を命ぜられ、彫刻科牙彫部助手を申付けられたり。

○大澤教授の留學延期 文部省留學生なる本校教授大澤三之助氏は、本年三月頃留學滿期に付歸朝の筈なりしが、今般私費留學延期を願ひ出られ、許可せられたるを以て本年暑中休暇頃ならでは、歸朝せられざるべしといふ。

○白濱教授の出張 同教授は文部省視學委員として、廣島岡山の兩縣下へ出張を命ぜられ、二月十七日出發せられたり。

東京美術學校近事「八一七。M・四三・五・一三」

○教授の榮轉と昇等 教授大築千里氏は、三月三十一日付を以て、京都帝國大學理工科大學教授に榮轉せられ高等官五等に敍せられ、教授大村西崖氏は、三月四日付を以て、高等官五等に陞敍せられたり。

○審査官の囑託 教授大築千里氏、囑託上原六四郎氏は、二月十八日愛知縣主催第十回關西府縣聯合共進會審査官を、農商務省より囑

託せられたり。

○職員の出張 黒田「清輝」教授は學術研究のため三月廿六日より三週間九州方面へ、北浦「大介」雇は文庫に關する取調のため三月末より八日間、京都大阪二府へ出張せられたり。

○助教授の新任 本年三月圖畫師範科卒業の波根義三氏は、四月八日付を以て、本校助教授に任ぜられたり。

○職員の休職 久米「桂一郎」教授は二月廿一日、海野教授（美盛氏）は三月二十四日、何れも休職を命ぜられ、三月末相携へて英國渡航の途に上られ、大村「西崖」教授は三月廿二日休職を命ぜられ、不日支那内地へ旅行して美術史資料を蒐集せらるべしといふ。

○大築「千里」氏へ囑託 同氏榮轉のことは別項記する處の如くなるが、本校にては四月九日付にて工藝化學授業を囑託せられたり。

○擊劍柔術道場の新築 從來のものは一時間に合せのため、依囑製作工場の跡を改造したるものなりしが、先般新に該道場の新築に着手し、外部は既に工を竣え、目下内部の造作に取掛りたれば、遠からず落成を見るに至るべし。總建坪は六十坪、之に小なる浴室を添へたるものにして、木村「敷秀」井上「縫太郎」兩指南の設計に係りたるものなれば、面積に於て廣しといふ程ならざれども、從來の建物に比すれば建坪二倍に上り、その構造の如きは、道場として誇るに足るべきものなりといふ。唯其位置の西隅に偏したるは敷地の都合上已むを得ることなれども、聊か遺憾とする所なり。

○第十九回卒業式と展覽會 本校第十九回卒業證書授與式は、三月二十九日午前十時より會議室に於て舉行せられたり。式の次第は高村「光雲」校長代理例の如く式辭を陳べ、兼て昨年の卒業式以來の

勝相撲	同	太田益三郎	自畫肖像、夏の夕	同	山脇 信徳
重 衡	同	下林 繁夫	自畫肖像、女、網すぎ	同	藤田 嗣治
ちやば	同	安井 厚	自畫肖像、憂鬱	同	住谷 宗一
色直し	同	小森 研二	自畫肖像、孤影	同	大谷 浩
後醍醐帝御還幸繪卷	同	岡田 純二	自畫肖像、子供	同	清水 大助
玉川の秋	同	古東 謙吉	自畫肖像、柿、追想	同	三隅禎三郎
物 詣	同	小藪 寛二	自畫肖像、をらさん	同	佐々木直哉
結 願	撰科	山内金三郎	自畫肖像、收穫	同	北古賀順橘
婆羅門乗	同	薦谷 幸作	自畫肖像、世界の破滅	同	小川長四郎
上宮皇子	同	安村 行雲	自畫肖像、畫室	同	蒲生 俊武
散 華	同	大久保應洋	自畫肖像、黄昏	同	大村 周二
凋 落	同	野口安太郎	自畫肖像、卜者	同	河野 繁市
西洋畫科			自畫肖像、淺間の麓	同	井上 六郎
自畫肖像、草刈、子守、風景二	本科	田邊 至	自畫肖像、佐渡の海、風景二	撰科	安宅安五郎
自畫肖像、たそがれ、子供、風景	同	加藤 靜兒	自畫肖像、人形賣	同	伊島正三郎
自畫肖像、屠場、西瓜賣、女	同	田中 良 ^{〔鈔〕}	自畫肖像、徒然	同	兒玉 末男
自畫肖像、柿の收穫、船窓	同	山下 鈞	自畫肖像、綴り方	同	望月 桂
自畫肖像、河岸	同	中井 金三	自畫肖像、女、深川の女	同	岡本 一平
自畫肖像、落葉の音、椿	同	新井 完	自畫肖像、女	同	西 長純
自畫肖像、子供、女、漁夫	同	長谷川 昇	自畫肖像、赤毛布	同	柴田 三郎
自畫肖像、豚肉店、手毬、魚	同	香田 勝太	彫 刻 科		
自畫肖像、五十三驛、神樂坂	同	近藤 浩	勞 餘	本科	松村秀太郎
自畫肖像、水のほとり、菓物店	同	長野 靖彦	モ デ ル	同	津村 央喜
自畫肖像、寢顔	同	九里 四郎	さ け	同	清水 太助

太 郎 作	撰科	石井 鶴三	總梨子地武藏野圖蔣繪茶箱	同	吉野 富雄
落ぶれた人	同	井上 直伍	花車蔣繪香盆	同	長谷川源太郎
物 思 ひ	同	牧野 國助	小判常地群蝶蔣繪卷真入箱	撰科	ボンブー、 ワナート
海 女	同	朝倉 靜麻	圖畫師範科		
圖 按 科			圖畫及手工成績		
住宅設計圖按	本科	辰巳 銀二	同	波根 義三	
商店設計圖按	同	飯田德三郎	同	森田清次郎	
住宅設計圖按	同	山岡 隆芳	同	高橋 貞治	
工藝各種圖按	同	窪島 政男	同	柴田 勝次	
公會堂設計圖按	同	今野清三郎	同	三尾與喜藏	
住宅設計圖按	同	高橋 要	同	小管敬左右	
工藝各種圖按	同	鈴木 範三	同	郷原藤一郎	
染織圖按（資料五節句）	同	中井 鉦作	同	前園正八郎	
金 工 科			同	我妻 榮吉	
融 和	本科	蒲生 鐵男	同	末光 富造	
朝 妻	同	岩崎 文七	同	藤岡龜三郎	
矮 鷄	同	佐藤 省吾	同	山村誠一郎	
鍾 馗	撰科	原田 縫吉	同	德永吾七郎	
孔 雀	同	チャルン、 スラナート	同	太田 久男	
鑄 造 科			同	三宅 宅三	
達摩大士	本科	鈴木 文衛	同	藍野 精一	
漆 工 科			同	安岡 信義	
金地石楠花蔣繪手宮	本科	三木 榮	同	山本 淳	
			卒業生科別人員		
			日本畫科……………	〔本科〕	計
				一三	五
				選科	一八

西洋畫科	二四	七	三二
彫刻科	三	四	七
圖按科	八	〇	八
金工科	三	二	五
鑄造科	一	〇	一
漆工科	三	一	四
圖畫師範科	一八		一八

合 計……………七三……………一九……………九二

○岩村〔透〕教授の應囑 同教授は四月の新學期より、慶應義塾大學部文學科の西洋藝術史講義を囑託せられたり。

○本校一覽の配付 本校一覽は本年は發刊大に遅れ、此程漸く刷成したるを以て、四月中旬、本校職員卒業生一同へ、それ〴〵配付せられたり。

東京美術學校近事〔八一八。M・四三・六・九〕

○教授諸氏の陞敘 教授岡田三郎助、同和田英作の兩氏は高等官四等に、教授白濱徹氏は高等官五等に、教授櫻岡三四郎氏は高等官六等に、何れも四月二十二日付を以て昇敘せられたり。

○教授の新任 助教授藤島武二氏は、五月十三日、本校教授に任じ、高等官七等に敘せられたり。

○本校改築工事の程度 本校の改築工事は其後漸次に歩を進めつゝあるが、目下は日本畫、西洋畫、彫刻の教室に充つべき本館の工事に取り懸るべき筈にて、五月中旬よりいよ〴〵その準備に着手し、

建築位置の繩張りも済みたれば順次に土臺の築造に着手すべく、一方にては從來文庫の西にありし運動場の廣場に、所狭きまで大工小屋を掛け、工人及運搬馬車の出入日を逐ふていよ〴〵繁し。

○新入學生 本校の豫備科及圖畫師範科入學者は、兼てより募集中なりしが、去る四月一日より入學者の撰拔試験を執行し、五日に至りて試験は終了せられ、同月七日の官報を以て入學を許可せられたるものゝ姓名を發表せり。其科別姓名及昨年との比較を記せば左の如し。但し此撰拔試験を行ひたるは、日本畫、西洋畫、圖案、圖畫師範の四科なりとす。

入學者氏名

日本畫科志願（十九人）

富田賢太郎	得重常太郎	西村 平間	齋藤 赫夫	太田 義一
植松 ^{（俊）} 敏郎	池田 信	友田 治夫	服部 謙一	郷倉 與作
金上 盛三	小林福三郎	中村 莞爾	西尾 聖	加藤丑之助
狩野 守久	村上彦三郎	林 與	丹羽 芳松	

西洋畫科志願（廿九人）

棕樹 妙立	高間 惣七	松美長四郎	氏原作次郎	鹿兒島常次郎
古郡 貞一	小松喜代子	内村 吉助	中村彌藤治	須田 信一
松見 吉彦	井上勇五郎	守田 千穰	井田 繁三	原 勝四郎
市川芳太郎	關 彦四郎	栗田兼次郎	宮武 辰夫	岡 一郎
野田 半三	山田誠一郎	佐竹 義種	大橋 慶一	福原 全秀
平澤 茂吉	及川 康雄	恩地孝四郎	金子 保	

彫刻科塑造部志願（五人）

清水外三郎 横田 貞信 山中儀太郎 長谷川勝之 大國 貞藏

高須 俊秀^{〔意〕}岡 義治 引田 八藏 山口不可止

圖案科志願（十人）

伊知地 廉 清水 吉臣 笠原 久雄 森田 茂 秋保謹四郎
三和 精一 大貫 重治 高瀬 滿治 水谷 慶治 安間 立雄

金工科志願（三人）

手島 達雄 山田^{〔崎〕} 敬止 小杉 直吉

鑄造科志願（五人）

本間 久雄 佐藤泰治郎 一井 英一 菅野 英一 齋藤 吉嗣

漆工科志願（一人）

近松善次郎

圖畫師範科（廿四人）

小阪留太郎^{〔坂〕} 小林 金治 工藤 廉平 杉浦 魁 有馬 廣厚
新藤 義守 太田 陽三 武田新太郎 高見 學 服部 寅男
石川彌八郎 佐藤三代治 接待 庸夫 平岡 信敏 渡部 儀八
大澤 左一 阿部 忠助 志賀 寛治 新野利三郎 武田 一郎
石川 確 齋藤 長次 井上 省三 木山 一雄

昨年との比較人員

科名	昨年の應募者	同入學許可者	本年の應募者	同入學許可者
日本畫	一四	一四	二六	一九
西洋畫	九五	三〇	九一	二九
彫刻	八	七	一一	九
圖案	一七	一〇	一四	一〇

金工	三	三	五	三
鑄造	三	三	五	五
漆工	一三	八	一	一
師範	四六	二五	三八	二四
計	一九九	一〇〇	一九一	一〇〇

東京美術學校近事〔八一—九。M・四三・七・九〕

○議院建築準備委員の任命 學校長正木直彦氏は、五月廿七日付を以て、議院建築準備委員會委員を仰付けらる。

○美術審査委員會書記の任免 文部省美術展覽會に兼務を以て書記たりし菅野「真」助教は、先頃渡英せられたるにより、五月三十一日付を以て該書記を免ぜられ、本校書記磯野富之助氏新たに同書記を命ぜらる。

○寺崎教授の休職と渡清 支那の風光を探り、支那畫風の由りて來る所を研究せんがため渡清せらるべしとの噂ありたる、本校教授寺崎廣業氏は、去る五月末に至りていよ／＼渡清の事に決し、六月四日付を以て休職を命ぜられ、同月七日午後三時四十分新橋を出發せられたり。同行者は南宗畫派の山岡米華氏及び本校出身の横山大觀氏にして、その順路は上海より杭州、蘇州、鎮江、江寧（南京）九江、漢口を経て、北京に赴き、それより天津を過ぎて八月末頃には歸京せらるべき筈にして、本年秋季の文部省展覽會には此旅行によりて得たる所を揮灑せらるべしといふ。

○石井「吉次郎」助教の出張 同氏は學術研究のため、奈良京都

地方へ出張を命ぜられ、去四月末より五月初旬にかけ出張せられたり。

○本年卒業期の修學旅行 毎年施行さるゝ本校卒業期生徒の奈良京都地方の修學旅行は、昨年は夏期に於てせられたるが、本年は多分九月十日前後よりなるべしといふ。

東京美術學校近事〔九一。M・四三・一〇・一八〕

○外國留學生の任命 助教授水谷鐵也氏は塑造研究のため、去る六月廿二日付を以て、滿三箇年間佛國、伊國、獨國へ留學を命ぜられ、來る十二月出發せらるゝといふ。

○職員の敘勲、教授石川光明、竹内久一、海野勝珉の三氏は、去る六月廿四日、勲五等に敘し、寶瑞賞瑞宝章を授けらる。

○黒岩〔倉吉〕助教授の出張 同氏は學術研究のため、岩手宮城の兩縣下へ十日間を以て出張を命ぜられ、去六月末出張せられたり。

○檢定委員の任命 教授久米桂一郎、囑託小島憲之、同上原六四郎、同乙竹岩造の四氏は、六月廿九日付を以て、教員檢定委員會臨時委員仰付けらる。

○雇の任命 安井匡雄氏は去七月八日付を以て、本校雇を命ぜられ、會計掛申付けられたり。

○職員の敘位 教授岡田三郎助、同和田英作の兩氏は各正六位に、教授白濱徹氏は從六位に、教授櫻岡三四郎氏は正七位に、教授藤島武二氏は從七位に、何れも七月十一日付を以て敘せられたり。

○美術審査委員會委員の任命 本校教授中文部省展覽會の審査委員

を命ぜられたる諸氏は黒田〔清輝〕、岩村〔透〕、川端〔玉章〕、高村〔光雲〕、石川〔光明〕、竹内〔久一〕、岡田〔三郎助〕、和田〔英作〕、寺崎〔広業〕、白井〔保次郎〕、小堀〔轅音〕の十一氏にして、其部屬等は別に記する所の如し。

○美術審査委員會主事代理 高村〔光雲〕本校長代理は、正木〔直彦〕美術審査委員會主事不在中代理を命ぜられたり。

○職員の昇等 教授川端玉章氏は高等官二等〔勅任〕に、同白井保次郎、島田佳矣の兩氏は高等官五等に、何れも八月十六日付を以て陞敘せられたり。

○關〔保之助〕囑託の歸朝 本年の春、日英博覽會の用務を帶びて渡英せられたる同氏は、去七月廿七日無事歸朝せられたり。

○石井〔吉次郎〕助教授の召集 同氏は九月一日より三週間、勤務演習のため近衛歩兵第三聯隊へ召集せらる。

○教授の新任と復職 京都帝國大學理工科大學の講師たりし鎌田彌壽治氏は、九月二日付を以て本校教授に任ぜられ、高等官七等に敘せられ、本學年より本校工藝化學を擔任せらるゝことゝなりたり、又嚮に支那漫遊を了へて歸朝せられたる寺崎〔広業〕休職教授は、九月五日付を以て復職を命ぜられたり。

○伊太利博覽會鑑査委員の任命 本校教授黒田〔清輝〕、岩村〔透〕、川端〔玉章〕、高村〔光雲〕、石川〔光明〕、竹内〔久一〕、岡田〔三郎助〕、和田〔英作〕、寺崎〔広業〕、白井〔保次郎〕、小堀〔轅音〕の十一氏は、農商務省より九月八日付を以て、伊太利萬國博覽會美術品出品鑑査委員を囑託せられたり。

○京都奈良等の修學旅行 本校卒業期生徒の修學旅行の一行は、九月十二日東京を出發し、先づ奈良に赴き、南大和、法隆寺、當麻寺を経て高野山に詣り、夫れより宇治を経て京都に入るの豫定にして、日數は例年の通り三週間、指導教官は松岡〔輝夫〕助教授、赤間〔運藏〕囑託、香取〔秀真〕囑託の三氏なり。

○大澤〔三之助〕教授の歸朝期 留學を延期せられ、英國淹留中なる同氏は、九月三日英國發の加茂丸にて歸朝の途に上られしといふ。

○日英博覽會の本校出品 同會に於ては、本校出品に對し、紀念章を贈らるゝことに決したる旨、九月二日農商務省内の同事務局より通知ありたりといふ。

○特待生 本校に於て本學年中特待生に選定せられたる諸氏左の如し。

今尾十一郎 (日二) 内田他治郎 (日二) 篠原 圓次 (日三)
野木定次郎 (西一) 齋藤 知雄 (西三) 佐野 貞雄 (西四)
田邊 孝次 (彫二) 加藤 孝三 (彫三) 新田藤太郎 (彫三)
入谷 昇 (彫四) 藤村彦四郎 (圖一) 今 和次郎 (圖三)
山崎 陽一 (圖三) 磯野 三郎 (金二) 神矢 教親 (金三)
石崎 誠二 (漆一) 香川源四郎 (漆三)

備考 (日二) は日本畫科二年とす、以下之に倣ふ。

○精勤者 前學年中學業に精勵したる廉により、本校より精勤證書を授與せらるたる諸氏左の如し。

立野 甚一 (日一) 龍 信五郎 (日撰一)

奥山常太郎 (日撰三)

酒井 榮之 (西二)

御厨 純一 (西三)

李 岸 (西撰四)

三浦 長壽 (彫撰一)

井上 久次 (彫撰二)

志摩 鶴二 (彫撰二)

佐瀬芳之助 (彫撰二)

村田延之助 (金撰一)

神矢 教親 (金三)

能守安太郎 (金撰三)

溝淵好三郎 (漆撰二)

杉江 春男 (西三)

林 健市 (彫一)

新田藤太郎 (彫三)

和田 季雄 (彫四)

木村 清 (漆四)

富永 光一 (彫撰三)

金田 勇 (彫撰三)

○撰科入學許可者 本校にては九月十四日より、兼て募集中の各撰科入學志願者の試験を施行せられたるが、其結果入學を許されたる諸氏左の如し、

日本畫撰科 (八人)

夏目 利政 小西 三郎 豐島吉之助 紅葉谷楠一 佐取 輝三

永江 質吉 小田 繁雄 高橋 清一

西洋畫撰科 (二人)

方 明遠 潘 壽恆

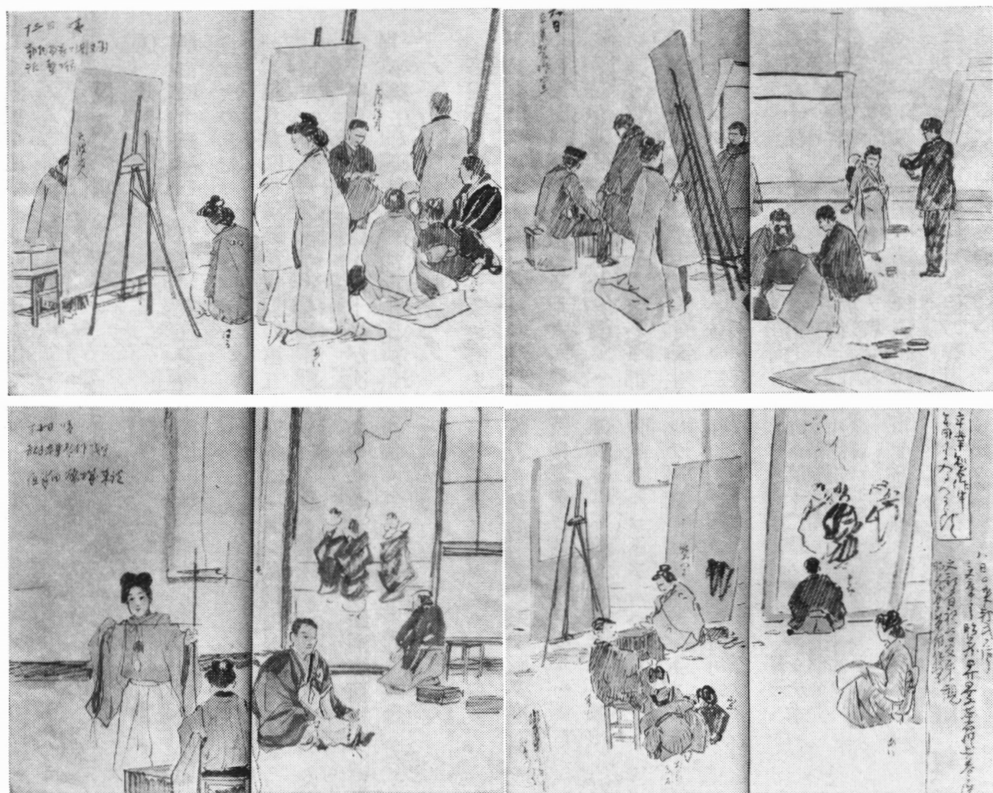
彫刻撰科 (八人)

横江 嘉純 田中 求 小野田嘉助 菅野福四郎 塚越 東七

長谷部健次郎 龜岡 崇 勝尾 二郎

金工撰科 (二人)

近森 岩太 今村 靜一



日本画科卒業制作室 江森天寿写生帖（明治43年）より

東京美術學校近事〔九一二。M・四三・十一・三〇〕

○職員の数位 教授川端玉章氏は正五位に、同白井保次郎、島田佳矣の兩氏は從六位に、孰れも十月二十一日昇叙せらる。

○大澤〔三之助〕教授の歸朝 同教授は久しく歐洲に留學中なりしが、十月十九日無事歸朝せられたり。

東京美術學校近事〔九一三。M・四三・十二・二七〕

○正木〔直彦〕學校長の歸朝 日英博覽會の用務を帯びて、本年二月出發渡英せられたる正木學校長は、去る十一月二十一日新橋着の瀛車にて、無事歸朝せられたり。

○正木學校長の出張 正木學校長は、歸朝後日英博覽會の古美術品に關する用務のため、十一月二十六日より一週間、京都及奈良へ出張せられたり。

○鎌田〔弥寿治〕教授の数位 同教授は十一月十一日從七位に叙せられたり。

○水谷助教の海外發程 嚮に佛國、獨國、伊國へ塑造研究の爲め留學を命ぜられたる本校助教水谷鐵也氏は、十一月廿七日午後三時二十五分新橋發の瀛車に搭して渡航の途に上られ十二月十二日、門司より乗船せられたりと。

○黒田教授の帝室技藝員拜命 本校教授黒田清輝氏は、去る十月十八日付にて、帝室技藝員を拜命せられたり。西洋畫家

にして此恩命に浴せしは、氏を以て嘯矢となす。

関連事項

① 規則小改正

明治四十三年三月九日、東京美術学校規則が一部改正された。改正点は次のとおりである。

一、第八章図画師範科規程の第五十五条に「但シ私費生ト爲スコトアルヘシ」の語句が付け加えられた。

二、同章第五十八條〜六十條が次のように改められ、図画師範科卒業生も研究科在学が認められた。

第五十八條 第五十三條ニ依リテ退學ヲ命シタルモノ、外在學

中半途ニシテ退學スル者又ハ除名若クハ退學ヲ命セラレタル

モノハ既ニ支給セラレタル學資及授業費ヲ償還スヘシ

但シ疾病傷痍又ハ酌量スヘキ事情アルトキハ償還スヘキ學

資及授業費ノ一部又ハ全部ヲ免除スルコトアルヘシ

第五十九條 圖畫師範科卒業生ニシテ研究科ニ入學セントスル

モノアルトキハ時宜ニ依リ二學年以内ヲ限リ入學ヲ許可スル

コトアルヘシ

第六十條 第三章第四章第七章第九章第十二章ノ規程ニシテ本

規程并ニ圖畫師範科生徒ニ關スル諸規程ト牴觸セサルモノハ

圖畫師範科生徒ニ之ヲ準用ス

三、第十二章授業料及其他の費用に關する規程の第九十條、九十

一條が次のように改正された。

第九十條 授業料ハ一學年金貳拾圓ト定ム

研究生、圖畫師範科生徒及實業學校教員養成規程ニ依レル學
資補給生ヨリハ授業料ヲ徴收セス

第九十一條 授業料ハ毎年九月ハ金八圓ヲ一月四月ハ金六圓ヲ
各其月ノ十五日ヨリ五日間ニ本校收入官吏ニ納付スヘシ

但シ一旦納付シタル授業料ハ如何ナル事故アルモ返付セス

(以上引用は『東京美術学校一覽 從明治四十三年
至明治四十四年』)

② 図画師範科卒業生服務規則改正

明治四十三年三月十日、文部省令第二号により次のように改正が
なされた。

東京美術學校圖畫師範科卒業生服務規則

第一條 東京美術學校圖畫師範科卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ

左ノ期間引續キ教育ニ關スル職務ニ従事スル義務ヲ有ス

一 學資ノ支給ヲ受ケタル者ハ五箇年

二 學資ノ支給ヲ受ケサル者ハ二箇年

第二條 東京美術學校圖畫師範科卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ
左ノ期間文部大臣ノ指定ニ從ヒ奉職スル義務ヲ有ス

一 學資ノ支給ヲ受ケタル者ハ二箇年

二 學資ノ支給ヲ受ケサル者ハ一箇年

第三條 東京美術學校圖畫師範科卒業生ニシテ特別ノ事情ニ依リ

第一條ノ義務ヲ履行スルコト能ハサル者ハ其ノ理由ヲ具シ東京
美術學校長又ハ地方長官ヲ經テ義務ノ猶豫又ハ免除ヲ文部大臣